

第1回アジア医学生国際会議
報告書

1980

西日本医学生アジア連絡協議会

第1回アジア医学生バンコック国際会議

— 共同声明文 —

私達は、第1回アジア医学生国際会議が、マヒドン大学公衆衛生学部長デパノン先生をはじめとするマヒドン大学の暖かい理解と協力によって実現できたことを深く感謝する。

私達アジアの医学生は、この会議を通じて、アジア地域の保健・医療の国際協力の必要性を痛感した。4人の先生方の特別講演及び各国医学生の現状報告により、各国の保健・医療事情の相異と共に基本的に共通の問題を有していることが明らかになった。又、各国が、地域保健・医療問題に独自の問題解決法を展開していることを確認した。

この問題解決法は、各国の文明・文化を背景にしており、単なる保健・医療技術を越えて、国際的に共通した新たなアプローチを追求していることがわかった。

私達は、ここに、相互に参考すべき方法論の開発があると思う。この方法論の開発は、相互に熱心にして頻回なる交流をすることによってのみ得られると確信する。

この方法論の開発こそ、保健・医療の国際協力を目指す時、確実に積み重ねていくべき重要なものであると信じる。

この目的実現化のために当会議は下記のアピールをする。

1. 第2回アジア医学生国際会議を1981年バンコックで開催する。
2. アジアの医学生と青年医師の相互研修を行い、相互の保健・医療環境とその背景の理解を深める。
3. アジア地域の保健・医療の問題点、特に、農村医学、熱帯医学、保健情報等についても具体的に相互研修及び協力をすすめる。